

令和7年度「卒業生等・企業等アンケート調査」集計結果

1. 調査目的

本学卒業生等の学生生活への満足度や学修成果，また，企業からみた本学卒業生等への評価を把握し，教育に関する内部質保証，教育のさらなる改善に役立てるため実施。

2. アンケート項目

別紙のとおり

3. 調査対象

(1) 卒業生アンケート

令和3年度卒業生等（卒業・修了3年後）

(2) 企業等アンケート

令和3年度卒業生等（卒業・修了3年後）が就職している企業等（一時的な仕事に就いた者，医学部の卒業生，教員は除く。）すべての就職企業等を対象。

4. 実施方法

- ・Web アンケートシステム Forms を利用して Web 上で行う。
- ・アンケート依頼ハガキ（アドレス記載）並びに登録メールアドレスに送付する。
今回からハガキの送付に加え，キャリアセンター登録のメールアドレスにも送付した。

5. 回答率

(1) 卒業生アンケート

16.77%（261 件／1,556 件） 前回 20.85%（298 件／1,429 件）

18.95%（261 件／1,377 件）

(2) 企業等アンケート

33.33%（169 件／507 件） 前回 31.85%（214 件／672 件）

33.80%（169 件／500 件）

(1)卒業生アンケート

I 基本事項について

問1 在籍していた学部・学科，研究科等をお知らせください。

所属	回答数	全回答数に占める割合
人文社会科学部	47	18%
文化創生課程	18	
社会経営課程	29	
人文学部	0	0%
現代社会課程	0	
経済経営課程	0	
教育学部	27	10%
学校教育教員養成課程	24	
養護教諭養成課程	3	
生涯教育課程	0	
医学科	13	5%
医学部保健学科	34	13%
看護学専攻	14	
放射線技術科学専攻	3	
検査技術科学専攻	9	
理学療法学専攻	5	
作業療法学専攻	3	
理工学部	57	22%
数物科学科	17	
物質創成化学科	7	
地球環境防災学科	8	
電子情報工学科	13	
機械科学科	6	
自然エネルギー学科	6	
数理科学科	0	
物理科学科	0	
地域環境工学科	0	
知能機械工学科	0	
農学生命科学部	44	17%
生物学科	3	
分子生命科学科	10	
食料資源学科	11	
国際園芸農学科	11	
地域環境工学科	9	
生物資源学科	0	
園芸農学科	0	
計	222	85%

所属	回答数	全回答数に占める割合
人文社会学研究科	0	0%
文化科学専攻	0	
応用社会科学専攻	0	
教育学研究科	5	2%
学校教育専攻	1	
教職実践専攻	4	
教科教育専攻	0	
医学研究科 医科学専攻	3	1%
保健学研究科	4	1%
(博士前期専攻)保健学専攻	2	
(博士後期専攻)保健学専攻	2	
理工学研究科	16	6%
(博士前期課程)理工学専攻	16	
(博士後期課程)	0	
農学生命科学研究科	7	3%
農学生命科学専攻	7	
地域社会専攻	1	0%
地域共創科学研究科	3	1%
計	36	14%

総計	261
-----------	------------

問2 現在の職業(業種)をお知らせください。

- (選択肢) 1. 農業・林業 2. 漁業 3. 鉱業, 採石業, 砂利採取業 4. 建設業 5. 製造業
 6. 電気・ガス・熱供給・水道業 7. 情報通信業 8. 運輸業, 郵便業 9. 卸売業, 小売業(店員含む)
 10. 金融業, 保険業 11. 不動産業, 物品賃貸業 12. 学術研究, 専門・技術サービス業
 13. 宿泊業, 飲食サービス業 14. 生活関連サービス業, 娯楽業 15. 教育, 学習支援業
 16. 医療, 福祉 17. 複合サービス事業 18. サービス業(他に分類されないもの)
 19. 公務 20. アルバイト・フリーター 21. 無職・家事手伝い 22. その他

所属	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
人文社会科学部				3	1	1	4		2	8	1
教育学部							2		1	3	
医学部医学科											
医学部保健学科							1				
理工学部	1			8	11	7	12		1	2	
農学生命科学部	4			3	9				3	1	
教育学研究科											
医学研究科					1						
保健学研究科											
理工学研究科				2	9		2				
農学生命科学研究科					3						
地域社会研究科											
地域共創科学研究科				1							
総計	5	0	0	17	34	8	21		7	14	1
比率	1.9%	0.0%	0.0%	6.5%	13.0%	3.1%	8.0%	0.0%	2.7%	5.4%	0.4%

所属	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
人文社会科学部		1		1	2	1	2	16	2		2
教育学部				14	1		1	4			1
医学部医学科					13						
医学部保健学科				1	25			4	1		2
理工学部	1	1		2				8			3
農学生命科学部	5				2		1	11	2	1	2
教育学研究科	1			4							
医学研究科				1	1						
保健学研究科				2	2						
理工学研究科	1							1			1
農学生命科学研究科	1			1					1		1
地域社会研究科				1							
地域共創科学研究科	1							1			
総計	10	2		27	46	1	4	45	6	1	12
比率	3.8%	0.8%	0.0%	10.3%	17.6%	0.4%	1.5%	17.2%	2.3%	0.4%	4.6%

その他

・市場調査業・広告代理店・大学職員・医学部医学科に編入・学生(大阪大学大学院医学系研究科 医学専攻 博士課程)・
 設計業・博士後期課程・大学院博士課程後期・契約職員・中小企業支援事業・博士後期課程・博士課程

問3 就職・進学先は、入学時に希望していた進路と一致しますか。

所属	希望どおり	大体希望どおり	希望どおりではないが満足している	希望どおりではなく満足していない	希望する進路がなかった
人文社会科学部	10	16	13	2	6
教育学部	9	6	11		1
医学部医学科	8	4	1		
医学部保健学科	17	11	4	1	1
理工学部	14	16	18	3	6
農学生命科学部	8	12	20	1	3
教育学研究科	5				
医学研究科	2				1
保健学研究科	2	1			1
理工学研究科	2	7	5		2
農学生命科学研究科	1	1	3	2	
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科		3			
総計	79	77	75	9	21
比率	30.3%	29.5%	28.7%	3.4%	8.0%

Ⅱ 本学在学中の教育や学生支援について

問4 教育内容に、全体として満足でしたか。

所属	満足だった	どちらかといえば満足だった	一概に言えない	どちらかといえば不満足だった	不満足だった
人文社会科学部	21	21	5		
教育学部	8	14	3	1	1
医学部医学科	1	7	2	2	1
医学部保健学科	12	16	4	1	1
理工学部	13	36	6	1	1
農学生命科学部	15	23	6		
教育学研究科	5				
医学研究科	1		2		
保健学研究科	1		2	1	
理工学研究科	6	8	2		
農学生命科学研究科	2	5			
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科		3			
総計	86	133	32	6	4
比率	33.0%	51.0%	12.3%	2.3%	1.5%

問5 学習や研究に関わる施設、設備、備品は十分でしたか。

所属	十分だった	不足していたが学習や研究はできた	一概に言えない	不十分で学習や研究がやりにくかった	不十分で学習や研究ができなかった
人文社会科学部	34	10	3		
教育学部	19	5	2	1	
医学部医学科		7	1	5	
医学部保健学科	21	8	5		
理工学部	31	17	6	2	1
農学生命科学部	20	13	7	4	
教育学研究科	4	1			
医学研究科	1	1	1		
保健学研究科	1		1	2	
理工学研究科	8	6	2		
農学生命科学研究科	3	3		1	
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科	1	2			
総計	144	73	28	15	1
比率	55.2%	28.0%	10.7%	5.7%	0.4%

問6 課外活動に関わる施設、設備、備品は十分でしたか。

所属	十分だった	不足していたが課外活動はできた	一概に言えない	不十分で課外活動がやりにくかった	不十分で課外活動ができなかった
人文社会科学部	28	10	8	1	
教育学部	17	4	4	2	
医学部医学科	2	7	2	2	
医学部保健学科	21	6	5	2	
理工学部	23	17	11	5	1
農学生命科学部	25	6	13		
教育学研究科	4	1			
医学研究科	1		2		
保健学研究科		1	3		
理工学研究科	8	3	5		
農学生命科学研究科	3	2	2		
地域社会研究科			1		
地域共創科学研究科	3				
総計	135	57	56	12	1
比率	51.7%	21.8%	21.5%	4.6%	0.4%

問7 就職活動への支援は十分でしたか。

所属	十分だった	不足していたが就職活動に問題はなかった	一概に言えない	不十分で就職活動に苦労した	不十分で就職活動ができなかった
人文社会科学部	26	8	10	3	
教育学部	16	2	7	2	
医学部医学科	6	3	3	1	
医学部保健学科	16	13	4		1
理工学部	24	15	16	1	1
農学生命科学部	18	9	16		1
教育学研究科	4		1		
医学研究科			3		
保健学研究科			4		
理工学研究科	7	3	6		
農学生命科学研究科	3	1	3		
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科	2		1		
総計	123	54	74	7	3
比率	47.1%	20.7%	28.4%	2.7%	1.1%

Ⅲ 学生生活で感じたこと、身についたと思うことについて

問8 弘前大学では、次の①から④に掲げる知識や資質を身に付けた学生に対して、学位を授与する旨の方針を明確にしました。それらは身に付いたと思われますか。

①学際的な教養と高度な専門性

所属	身に付いた	どちらかといえば身に付いた	一概に言えない	どちらかといえば身に付かなかった	身に付かなかった
人文社会科学部	10	28	8	1	
教育学部	8	14	4		1
医学部医学科	4	7	2		
医学部保健学科	13	16	1	2	2
理工学部	12	32	5	7	1
農学生命科学部	8	23	8	4	1
教育学研究科	5				
医学研究科	3				
保健学研究科		3		1	
理工学研究科	6	6	4		
農学生命科学研究科		4	2	1	
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科	1	2			
総計	71	135	34	16	5
比率	27.2%	51.7%	13.0%	6.1%	1.9%

②学術的観点から自然や社会を見通す力

所属	身に付いた	どちらかといえば身に付いた	一概に言えない	どちらかといえば身に付かなかった	身に付かなかった
人文社会科学部	16	24	6	1	
教育学部	6	14	4	2	1
医学部医学科	2	6	3	1	1
医学部保健学科	5	17	7	4	1
理工学部	14	35	3	5	
農学生命科学部	8	24	7	4	1
教育学研究科	4	1			
医学研究科	2		1		
保健学研究科	1	1	1	1	
理工学研究科	6	8	1	1	
農学生命科学研究科	1	3	2	1	
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科	2	1			
総計	68	134	35	20	4
比率	26.1%	51.3%	13.4%	7.7%	1.5%

③学術的な知識を具体的な実践へ移し、国際社会や地域社会の問題を解決していく力

所属	身に付いた	どちらかといえば身に付いた	一概に言えない	どちらかといえば身に付かなかった	身に付かなかった
人文社会科学部	12	20	13	2	
教育学部	5	13	5	3	1
医学部医学科		5	5	2	1
医学部保健学科	4	15	7	6	2
理工学部	9	20	16	11	1
農学生命科学部	3	21	13	6	1
教育学研究科	3	2			
医学研究科	2		1		
保健学研究科	1	1	1		1
理工学研究科	3	8	4		1
農学生命科学研究科	1	1	3	1	1
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科	2	1			
総計	46	107	68	31	9
比率	17.6%	41.0%	26.1%	11.9%	3.4%

④常に新しい問題に挑戦し続け、生涯にわたって自らを成長させていく学び続ける力

所属	身に付いた	どちらかといえば身に付いた	一概に言えない	どちらかといえば身に付かなかった	身に付かなかった
人文社会科学部	17	22	8		
教育学部	9	12	5	1	
医学部医学科	1	8	3	1	
医学部保健学科	9	17	4	2	2
理工学部	20	31	4	2	
農学生命科学部	14	21	4	4	1
教育学研究科	5				
医学研究科	3				
保健学研究科	1	2			1
理工学研究科	7	7	2		
農学生命科学研究科	1	3	1	2	
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科		2	1		
総計	88	125	32	12	4
比率	33.7%	47.9%	12.3%	4.6%	1.5%

問9 教養教育科目について

教養教育科目の目的は、「主体的・能動的学修への転換」、「文理融合教育による多元的な視点や思考法の獲得」、「国際共通語としての英語能力の獲得」、「地域志向性（地域が持つ強みや課題の理解、課題解決への意欲等）の涵養」、「国際性（異文化理解、多文化共生等）の涵養」でしたが、それらは身に付いたと思われますか。

①主体的・能動的学修態度

所属	身に付いた	どちらかといえば身に付いた	一概に言えない	どちらかといえば身に付かなかった	身に付かなかった
人文社会科学部	14	26	7		
教育学部	7	17	3		
医学部医学科	1	8	3		1
医学部保健学科	6	17	9	1	1
理工学部	18	31	3	4	1
農学生命科学部	9	23	6	4	2
教育学研究科	4		1		
医学研究科	1		2		
保健学研究科	1	1	2		
理工学研究科	4	8	4		
農学生命科学研究科	1	3	2		1
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科	1	1	1		
総計	68	135	43	9	6
比率	26.1%	51.7%	16.5%	3.4%	2.3%

②多元的な視点や思考法

所属	身に付いた	どちらかといえば身に付いた	一概に言えない	どちらかといえば身に付かなかった	身に付かなかった
人文社会科学部	18	22	7		
教育学部	10	13	4		
医学部医学科	1	5	6	1	
医学部保健学科	7	19	6	1	1
理工学部	24	26	3	3	1
農学生命科学部	7	21	7	7	2
教育学研究科	3	1	1		
医学研究科	2	1			
保健学研究科	1		2	1	
理工学研究科	7	7	2		
農学生命科学研究科	2	2	1	2	
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科	1	1	1		
総計	84	118	40	15	4
比率	32.2%	45.2%	15.3%	5.7%	1.5%

③国際共通語としての英語能力

所属	身に付いた	どちらかといえば身に付いた	一概に言えない	どちらかといえば身に付かなかった	身に付かなかった
人文社会科学部	4	13	12	13	5
教育学部	1	6	10	9	1
医学部医学科		1	5	4	3
医学部保健学科	1	13	5	10	5
理工学部	4	14	18	12	9
農学生命科学部	1	10	11	14	8
教育学研究科	1		3		1
医学研究科		1	1	1	
保健学研究科			1		3
理工学研究科		5	6	2	3
農学生命科学研究科		1		4	2
地域社会研究科			1		
地域共創科学研究科		1		2	
総計	12	65	73	71	40
比率	4.6%	24.9%	28.0%	27.2%	15.3%

④地域志向性

所属	身に付いた	どちらかといえば身に付いた	一概に言えない	どちらかといえば身に付かなかった	身に付かなかった
人文社会科学部	15	25	7		
教育学部	9	12	3	2	1
医学部医学科	2	3	5		3
医学部保健学科	6	14	9	4	1
理工学部	14	28	7	7	1
農学生命科学部	12	22	2	6	2
教育学研究科	2	2	1		
医学研究科	1		1	1	
保健学研究科	1	1	1		1
理工学研究科	1	10	4		1
農学生命科学研究科	1	6			
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科	1	2			
総計	66	125	40	20	10
比率	25.3%	47.9%	15.3%	7.7%	3.8%

⑤国際性

所属	身に付いた	どちらかといえば身に付いた	一概に言えない	どちらかといえば身に付かなかった	身に付かなかった
人文社会科学部	8	13	13	9	4
教育学部	2	8	8	8	1
医学部医学科		2	6	3	2
医学部保健学科	3	8	9	10	4
理工学部	2	19	20	8	8
農学生命科学部	1	15	12	8	8
教育学研究科	2	1	2		
医学研究科	1	1	1		
保健学研究科		1	1		2
理工学研究科		7	6	1	2
農学生命科学研究科		2	2	2	1
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科		1	1	1	
総計	20	78	81	50	32
比率	7.7%	29.9%	31.0%	19.2%	12.3%

問 10 特に仕事に関わることで、大学で学んだことや、経験が役に立っていると感じますか。

①学際的な教養と高度な専門性

所属	非常に役に立っている	役に立っている	一概に言えない	あまり役に立っていない	役に立っていない
人文社会科学部	7	21	9	10	
教育学部	10	8	5	4	
医学部医学科	3	8	2		
医学部保健学科	13	13	4	1	3
理工学部	14	22	14	4	3
農学生命科学部	6	15	11	9	3
教育学研究科	4	1			
医学研究科	3				
保健学研究科		3		1	
理工学研究科	4	7	3	1	1
農学生命科学研究科	1	2	3		1
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科		2	1		
総計	66	102	52	30	11
比率	25.3%	39.1%	19.9%	11.5%	4.2%

②学術的観点から自然や社会を見通す力

所属	非常に役に立っている	役に立っている	一概に言えない	あまり役に立っていない	役に立っていない
人文社会科学部	9	25	8	5	
教育学部	4	12	7	4	
医学部医学科	1	5	5	1	1
医学部保健学科	7	13	8	3	3
理工学部	6	34	9	3	5
農学生命科学部	2	21	13	7	1
教育学研究科	3	2			
医学研究科	2	1			
保健学研究科		2	1		1
理工学研究科	5	8	2	1	
農学生命科学研究科	1	4	1	1	
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科		3			
総計	41	130	54	25	11
比率	15.7%	49.8%	20.7%	9.6%	4.2%

③学術的な知識を具体的な実践へ移し、国際社会や地域社会の問題を解決していく力

所属	非常に役に立っている	役に立っている	一概に言えない	あまり役に立っていない	役に立っていない
人文社会科学部	7	2	12	21	5
教育学部	5	1	5	12	4
医学部医学科	2	1	4	6	
医学部保健学科	5	3	4	16	6
理工学部	8	7	12	26	4
農学生命科学部	6	4	16	17	1
教育学研究科			1	2	2
医学研究科				1	2
保健学研究科	2			2	
理工学研究科	1	1	4	8	2
農学生命科学研究科	1	1	2	2	1
地域社会研究科					1
地域共創科学研究科			1	2	
総計	37	20	61	115	28
比率	14.2%	7.7%	23.4%	44.1%	10.7%

④常に新しい問題に挑戦し続け、生涯にわたって自らを成長させていく学び続ける力

所属	非常に役に立っている	役に立っている	一概に言えない	あまり役に立っていない	役に立っていない
人文社会科学部	13	23	9	2	
教育学部	7	15	3	2	
医学部医学科	1	8	3	1	
医学部保健学科	11	16	2	3	2
理工学部	14	34	6	2	1
農学生命科学部	7	26	7	3	1
教育学研究科	5				
医学研究科	2	1			
保健学研究科	1	2	1		
理工学研究科	4	10	1	1	
農学生命科学研究科	1	6			
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科	1	1	1		
総計	68	142	33	14	4
比率	26.1%	54.4%	12.6%	5.4%	1.5%

問 11 仕事以外の日常生活の中で、大学で学んだことや、経験が役に立っていると感じますか。

①学際的な教養と高度な専門性

所属	非常に役に立っている	役に立っている	一概に言えない	あまり役に立っていない	役に立っていない
人文社会科学部	7	24	9	6	1
教育学部	4	12	9	1	1
医学部医学科	2	7	3		1
医学部保健学科	8	12	8	4	2
理工学部	10	29	10	5	3
農学生命科学部	1	22	11	7	3
教育学研究科	1	4			
医学研究科	1		2		
保健学研究科		2	2		
理工学研究科	3	8	4		1
農学生命科学研究科	2	2	2		1
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科	1		2		
総計	41	122	62	23	13
比率	15.7%	46.7%	23.8%	8.8%	5.0%

②学術的観点から自然や社会を見通す力

所属	非常に役に立っている	役に立っている	一概に言えない	あまり役に立っていない	役に立っていない
人文社会科学部	10	23	10	4	
教育学部	5	10	7	4	1
医学部医学科	1	7	3		2
医学部保健学科	5	14	8	4	3
理工学部	11	31	7	4	4
農学生命科学部	4	22	10	6	2
教育学研究科	2	3			
医学研究科	1		2		
保健学研究科		2	1	1	
理工学研究科	3	10	3		
農学生命科学研究科	1	4	1	1	
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科	1	1	1		
総計	45	127	53	24	12
比率	17.2%	48.7%	20.3%	9.2%	4.6%

③学術的な知識を具体的な実践へ移し、国際社会や地域社会の問題を解決していく力

所属	非常に役に立っている	役に立っている	一概に言えない	あまり役に立っていない	役に立っていない
人文社会科学部	8	22	11	6	
教育学部	2	11	6	6	2
医学部医学科	1	4	6		2
医学部保健学科	5	14	8	4	3
理工学部	7	26	10	7	7
農学生命科学部	1	20	13	8	2
教育学研究科	2	1	1	1	
医学研究科	1		2		
保健学研究科		2	1	1	
理工学研究科	1	6	8		1
農学生命科学研究科	1	3	1	1	1
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科		1	2		
総計	30	110	69	34	18
比率	11.5%	42.1%	26.4%	13.0%	6.9%

④常に新しい問題に挑戦し続け、生涯にわたって自らを成長させていく学び続ける力

所属	非常に役に立っている	役に立っている	一概に言えない	あまり役に立っていない	役に立っていない
人文社会科学部	12	24	11		
教育学部	4	17	4	1	1
医学部医学科	1	7	4		1
医学部保健学科	7	15	7	3	2
理工学部	15	29	9	3	1
農学生命科学部	7	23	7	6	1
教育学研究科	2	3			
医学研究科	1		2		
保健学研究科		3	1		
理工学研究科	5	9	2		
農学生命科学研究科	2	4		1	
地域社会研究科	1				
地域共創科学研究科		2	1		
総計	57	136	48	14	6
比率	21.8%	52.1%	18.4%	5.4%	2.3%

Ⅳ 在学生のため、今後の教育や学生支援に必要と思われること

問 12 今後どのような力を育成する教育の充実が望ましいですか。(○はいくつでも可。)

- (選択肢) 1. 専門的知識・技能 2. 基礎的知識・技能 3. 情報収集力 4. 論理的思考力
 5. コミュニケーション力 6. 自己管理力 7. 周囲(他者)へ配慮する力 8. 倫理観
 9. 社会的責任等の態度・志向性 10. 課題探求能力 11. 問題解決力 12. その他

所属	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
人文社会科学部	19	18	23	21	31	22	20	13	19	17	21	
教育学部	14	7	12	10	15	9	10	10	10	9	12	
医学部医学科	7	6	5	4	6	3	4	5	4	6	3	1
医学部保健学科	18	14	10	15	21	12	7	5	12	10	13	
理工学部	19	23	24	25	38	24	21	16	14	24	23	3
農学生命科学部	15	12	15	21	30	25	12	16	13	16	17	1
教育学研究科	2	2	1	3	3	2	1	1	2	2	1	
医学研究科	3	2	2	2	1			1		2	2	
保健学研究科	3		3	2	2	1				2		1
理工学研究科	7	5	4	7	10	7	4	4	3	7	6	
農学生命科学研究科	4	3	5	4	3	3	2	3	1	2	2	
地域社会研究科			1		1		1					
地域共創科学研究科	3	2			1	2	1	2	1	1	1	
総計	114	94	105	114	162	110	83	76	79	98	101	6

その他

- ・大人として最低限のマナー，人間性
- ・AI 時代を見据えた「課題発見・立案＋解決方法の提示」力と，心の知能指数である EQ を高める，ないし EQ に関する学問体系(心理学，脳科学・・・等)に関する理解
- ・情報の真偽判断力，交渉力
- ・ビジネス初級レベルの英会話
- ・情報処理処理・分析能力
- ・研究支援

問 13 問 12 以外のどの分野の支援を充実させることが望ましいですか。(○はいくつでも可。)

- (選択肢) 1. 部活・サークル活動(スポーツ中心) 2. 部活・サークル活動(文化・研究中心)
 3. クラス担任制度 4. 研究室・ゼミナールの活動 5. キャリア教育
 6. インターンシップ 7. ボランティア活動 8. 地域貢献活動 9. 海外留学
 10. アルバイト 11. その他

所属	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
人文社会科学部	9	12	7	23	21	15	8	16	8	8	
教育学部	7	3	1	12	11	9	6	4	3	6	1
医学部医学科	2	2	2	3	3	1	2	2	4		2
医学部保健学科	8	7	4	16	12	16	3	7	5	5	
理工学部	24	16	4	31	19	13	5	9	8	11	1
農学生命科学部	9	7	5	28	16	15	6	10	6	7	1
教育学研究科				4	3	1		2	1		
医学研究科				2				1	1		
保健学研究科			1	3	4	1			2		
理工学研究科	3	3	1	13	1	6		2	1	3	
農学生命科学研究科	4	3	2	2	3	1			4		
地域社会研究科	1	1					1	1	1	1	
地域共創科学研究科		1		3	2	2	1	1	1		
総計	67	55	27	140	95	80	32	55	45	41	5

その他

- ・進路を変更した際のカリキュラム等の見直し(教育学部で途中から地方公務員などを目指した場合、教育実習などにかかる時間は無駄)
- ・教育の専門家による(医学)教育改善
- ・可能かどうかは別として「職務体験」。企業のインターンシップのようなものを想定。学生にビジネス等を経験させて貰えば、なんのために勉強・研究しているのかは明確になり、「何と無く大学進学した」学生たちに学生生活でより鮮明な目的意識を持って生活させることができるのではに赤のではないかと思う。
- ・B3,B4 以前の早期ゼミ配属のシステムの導入は効果的に働くと感じた(他大学での印象として)
- ・子持ちの学生・職員への支援。ママの学生や院生が、研究や飲み会の時間帯が遅いために苦勞する姿を見てきました。彼女たちがとても不利に見えて、女性研究者を目指す気持ちが少し折れました。

問 14 今後なんらかの形で再び本学で学ぶとしたら、どのような機会にしたいですか。

- (選択肢) 1. 資格など修得のための特定の技術的・専門的知識を学ぶ機会
 2. 技術的知識ではない広い知識を、職業人としての実力を磨くために学ぶ機会
 3. 必ずしも仕事・職業とは関係のないことを広く教養として学ぶ機会
 4. その他のことで学ぶ機会
 5. 学ぶ機会ということでは特に希望することはない
 6. その他

所属	1	2	3	4	5	6
人文社会科学部	20	6	20			1
教育学部	14		11	1	1	
医学部医学科	5	2	3	1	2	
医学部保健学科	23	4	3	1	3	
理工学部	26	9	18		3	1
農学生命科学部	21	5	14		4	
教育学研究科	2	2	1			
医学研究科			3			
保健学研究科	1	1	2			
理工学研究科	6	4	5		1	
農学生命科学研究科	2		4		1	
地域社会研究科					1	
地域共創科学研究科	2		1			
総計	122	33	85	3	16	2
比率	46.7%	12.6%	32.6%	1.1%	6.1%	0.8%

その他

- ・ 次は自分の専門分野の研究を行えるような人間になって機会があれば貢献したい

(2) 企業アンケート

回答数 169 件

I 基礎項目

1. 所在地

	回答数	比率
青森県	44	26.0%
北海道	39	23.1%
東京都	33	19.5%
岩手県	9	5.3%
神奈川県	7	4.1%
秋田県	6	3.6%
宮城県	6	3.6%
大阪府	4	2.4%
茨城県	4	2.4%
長野県	3	1.8%
愛知県	3	1.8%
千葉県	2	1.2%
山形県	2	1.2%
群馬県	2	1.2%
福島県	1	0.6%
栃木県	1	0.6%
徳島県	1	0.6%
神奈川	1	0.6%
新潟県	1	0.6%

2. 業種

	回答数	比率
1. 農業・林業	0	0.0%
2. 漁業	0	0.0%
3. 鉱業、採石業、砂利採取業	0	0.0%
4. 建設業	7	4.1%
5. 製造業	39	23.1%
6. 電気・ガス・熱供給・水道業	3	1.8%
7. 情報通信業	19	11.2%
8. 運輸業、郵便業	1	0.6%
9. 卸売業、小売業	26	15.4%
10. 金融業、保険業	10	5.9%
11. 不動産業、物品賃貸業	3	1.8%
12. 学術研究、専門・技術サービス業	13	7.7%
13. 宿泊業、飲食サービス業	0	0.0%
14. 生活関連サービス業、娯楽業	1	0.6%
15. 教育、学習支援業	5	3.0%
16. 医療、福祉	4	2.4%
17. 複合サービス事業	0	0.0%
18. サービス業(他に分類されないもの)	10	5.9%
19. 公務	20	11.8%
20. その他	8	4.7%

3. 現在の弘前大学卒業生の在職者数 (大学院修了生を含む)

	回答数	比率
0～10 人未満	121	71.6%
10～20 人未満	23	13.6%
20～50 人未満	10	5.9%
50 人以上	11	6.5%
不明	3	1.8%
未回答	1	0.6%

Ⅱ 調査項目

1. 採用に当たってどのような点を重視しましたか。

①幅広い教養

	回答数	比率
重視する	13	7.7%
どちらかといえば重視する	97	57.4%
一概に言えない	47	27.8%
どちらかと言えば重視しない	8	4.7%
重視しない	4	2.4%

②専門分野の知識・技能

	回答数	比率
重視する	16	9.5%
どちらかといえば重視する	57	33.7%
一概に言えない	60	35.5%
どちらかと言えば重視しない	29	17.2%
重視しない	7	4.1%

③職業人としての基礎的な力

	回答数	比率
重視する	31	18.3%
どちらかといえば重視する	87	51.5%
一概に言えない	37	21.9%
どちらかと言えば重視しない	11	6.5%
重視しない	3	1.8%

④社会人としての基礎的な力

	回答数	比率
重視する	63	37.3%
どちらかといえば重視する	90	53.3%
一概に言えない	12	7.1%
どちらかと言えば重視しない	3	1.8%
重視しない	1	0.6%

⑤課題探究・問題解決に係る基礎的な力

	回答数	比率
重視する	59	34.9%
どちらかといえば重視する	84	49.7%
一概に言えない	22	13.0%
どちらかと言えば重視しない	2	1.2%
重視しない	2	1.2%

⑥その他

	回答数	比率
重視する	50	29.6%
どちらかといえば重視する	26	15.4%
一概に言えない	60	35.5%
どちらかと言えば重視しない	1	0.6%
重視しない	32	18.9%

その他

- ・グループワークや部活・サークルなどにおけるリーダー気質
- ・コミュニケーション能力 (25)
- ・コミュニケーション能力(人と信頼関係を構築できる力)
- ・コミュニケーション能力(相手の考えを汲み取る。チーム開発の際のコミュニケーション)
- ・コミュニケーション能力・オーガナイズ能力・論理的思考力
- ・他者とのコミュニケーション能力
- ・他質問と重複するかもしれませんが、顧客(発注者、地権者等)とのコミュニケーション能力
- ・小売業に必要なコミュニケーション力
- ・年齢相応のコミュニケーション能力や人間性
- ・ストレス耐性
- ・チームの一員として活動するための協調性
- ・チームワーク力
- ・プラス思考
- ・プログラミングが好き
- ・モノづくり
- ・リーダーシップ
- ・レジリエンスの高さ
- ・一般教養
- ・何か一つのことを継続する力
- ・課題解決能力(2)
- ・課題等に対する積極性と
- ・協調性 (2)
- ・協調性・チームワーク力など
- ・向上心(3)
- ・向上心、積極性
- ・行動で変化に応える力を磨く力
- ・困難に対する前向きな取り組み

- ・児童福祉への情熱や理解
- ・自ら仕事等を通じて経験やスキルを積み重ね
- ・自ら積極的に考え行動する力
- ・自己実現を追求するプロセス力
- ・自律的行動型
- ・主体性(5)
- ・主体性の高さ(勉強好き)
- ・順応力
- ・職務遂行能力
- ・心身ともに健康であること
- ・新しいことや未経験なことに対しての積極性・対応力
- ・新しい情報をキャッチし
- ・人との関わり力
- ・人物重視で面接させていただいております。特に自己分析ができている方は軸があり魅力に感じます。
- ・数的処理能力
- ・清潔感、表情、態度
- ・精神的柔軟性(レジリエンス)
- ・責任感(29)
- ・設計への興味関心
- ・専攻分野以外に対する興味・関心
- ・専門分野試験(研究職に限る)を一次試験二次試験で実施している。
- ・素直さ
- ・対応力
- ・対人能力(4)
- ・対話力
- ・農業・JAに係る業務であることからその関心度
- ・問題や課題に対して真面目に(愚直に)取組解決の糸口を見いだす忍耐力
- ・臨機応変の対応力
- ・論理的思考

2. 本学では、次の①から⑤に掲げる知識や資質を身に付けた学生に対して、学位を授与する方針を掲げていました。本学卒業生は、それらが身に付いていると思われますか。

①学際的な教養と高度な専門性

	回答数	比率
身に付いている	43	25.4%
どちらかと言えば身に付いている	86	50.9%
一概に言えない	39	23.1%
どちらかと言えば身に付いていない	1	0.6%
身に付いていない	0	0.0%

②学術的観点から自然や社会を見通す力

	回答数	比率
身に付いている	39	23.1%
どちらかと言えば身に付いている	76	45.0%
一概に言えない	51	30.2%
どちらかと言えば身に付いていない	3	1.8%
身に付いていない	0	0.0%

③学術的な知識を具体的な実践へ移し、国際社会や地域社会の問題を解決していく力

	回答数	比率
身に付いている	29	17.2%
どちらかと言えば身に付いている	79	46.7%
一概に言えない	56	33.1%
どちらかと言えば身に付いていない	4	2.4%
身に付いていない	1	0.6%

④常に新しい問題に挑戦し続け、生涯にわたって自らを成長させていく学び続ける力

	回答数	比率
身に付いている	64	37.9%
どちらかと言えば身に付いている	67	39.6%
一概に言えない	33	19.5%
どちらかと言えば身に付いていない	4	2.4%
身に付いていない	1	0.6%

その他

- ・コロナ禍は、いろいろな経験の機会を学生から奪った筈です。世の中は惰性で動いている側面もありますから、学部・学科・ゼミ・サークルなど、いたるところでコロナを機に失われたままの活動・行事があらうと想像しますが、それらを積極的に復活するよう努めていただきたいと思います。学生時代のあらゆる経験は、それからの人生において貴重な財産となります。
- ・特になし
- ・貴学出身者は基礎的学力・そこからの応用力に長けており、職業人として十分な能力を身に着けていると感じております。
- ・貴校卒業生の皆様は、社内において特に学習意欲や業務意欲が高く、入社後優秀な実績をあげられています。また人柄についても温和で協調性があり、弊社としては安心してお迎えしております。
- ・当社の中でマネージャーとして活躍するメンバーも含まれており、若手メンバーについても積極性や貢献意識の高い・メンバーの高いコアメンバーになっており、評価が高い。
- ・実社会との乖離
- ・入社してからも。資格試験に取り組む人物が多い。
- ・何事にも全力で取り組み、課題解決に取り組む姿は、他の社員のモデルとなっております。

3. 本学の教育について求めるものをお伺いします。

(1) 今後どのような力の育成を充実するのが望ましいと思われますか。(3つまで可)

	回答数
1. 専門的知識・技能	19
2. 基礎的知識・技能	41
3. 情報収集力	17
4. 論理的思考力	62
5. コミュニケーション力	128
6. 自己管理能力	38
7. 周囲(他者)へ配慮する力	46
8. 倫理観	15
9. 社会的責任等の態度・志向性	31
10. 課題探求能力	51
11. 問題解決力	57
12. その他	1

(2) 上記(1)以外のどの分野の支援を充実させることが望ましいと思われますか。(3つまで可)

	回答数
1. 部活・サークル活動(スポーツを中心に)	54
2. 部活・サークル活動(文化・研究を中心に)	34
3. クラス担任制度	5
4. 研究室・ゼミナールの活動	101
5. キャリア教育	90
6. インターンシップ	64
7. ボランティア活動	16
8. 地域貢献活動	57
9. 海外留学	8
10. アルバイト	39
11. その他	4

- ・社会課題とその解決への取り組みなど、企業見学やインターンシップを充実していただけますと幸いです。
- ・貴大学に限らず、学生自身が、自ら考え、動く力や発信する力を身につけていただきたいと思いますので、そのあたりの育成支援をお願いしたいです。
- ・者と協力して成し遂げる経験
- ・活動での日頃からのコミュニケーション